第６回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議出席報告書

資料 No.	＜SC62A 関係＞国際会議報告書
6-3／SC62A-①	SC62A/MT23「医療機器共通事項」米国／カールズバッド国際会議出席報告書 20090126-20090130
6-3／SC62A-②	SC62A/JWG6「在宅医療機器」日本／京都国際会議出席報告書 20090119-20090123
6-3／SC62A-③	SC62A/JWG6「在宅医療機器」日本／京都国際会議経費収支報告書 20090119-20090123
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議報告書
6-3／TC80-①	TC80/WG6「舶用航海および無線通信装置とシステム」英国／ロンドン国際会議出席報告書 20090204-20090206
6-3／TC80-②	TC80/WG14「舶用航海および無線通信装置とシステム」米国／サラソータ国際会議出席報告書 20090202-20090206
資料 No.	＜TC100/TA1 関係＞国際会議報告書
6-3／TC100TA1-①	TC100/TA1「放送用エンドユーザ機器」米国／ラスベガス国際会議出席報告書 20090109
資料 No.	＜SC31 関係＞国際会議報告書
6-3／SC31-①	SC31/WG4/SG3、SG6「自動認識及びデータ取得技術/RFID/エアインタフェース、コンフォーマンス」スイス／ノウシャテル国際会議出席報告書 20081110-20081112

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／SC62A-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 1 月 27 日

（報告者記載）整理番号：H20SC62A 予算無①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川 義人　報告書作成者氏名：市川 義人　（会社名）オリンパスメディカルシステムズ（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A（半角）
SC62A/MT23	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	医用電気機器共通事項
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 1 月 26 日 ～ 2009 年 1 月 30 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）カールズバッド	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jim Conrad	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 US　5、DE　3、UK　1、JP　1、DM　1、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 市川 義人（オリンパスメディカルシステムズ株）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景：現在 MT23 では基本性能、基礎安全と一般性能の EMC 規格である新しい規格を作成中である。2009 年 4 月 NWIP を回付する事を目標に１CD を作成中であるが、世の中に存在する電磁環境の最悪条件をイミュニティー試験法の基準として全ての医用電気機器に適用しようとしてきた。US、UK 主導。これに対し日本のみが反対意見を述べ、受け入れられる合理的な規格にしようとしてきた。今回は、NWIP 前の最終主要会議であり、３月には最終全体見直しのみが行われるためこれに参加して間違った方向に進まないようにする。

結果：・東京会議で日本案で決定した一般性能へのイミュニティー試験を CISPR24 と同じにすると言った提案（決定済）に対して US が再度意義を唱え、より厳しい環境を適用するという意見に対し議論及び決をとった結果、US,UK 対 DE、JP で真っ二つに別れ最終的には折衷案である２カテゴリーに落ち着きさらに、カテゴリー１には病院環境、開業医環境を含めることができた。

・MT23 フィロソフィードキュメントと言うものを作成してきた（FDA）日本に対するけん制を行ってきた。

・これまで US,UK 主導で潰されてきたドイツ勢が JP に刺激されて戦う姿勢に変化し、JP 意見に賛成の姿勢をとるようになってきた。

・規格１CD は全体として６０％の完成度であり、３月にドイツでの二日間の会議で残り完成できるとは思えない。

今後の予定：１CD　2009 年 4 月、２CD　2009 年 11 月,CDV　2010 年 8 月、FDIS 2011 年 7 月、IS 2011 年 12 月

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／SC62A-②事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 1 月 27 日

（報告者記載）整理番号：H20SC62A21

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：石田 伸司　（会社名）テルモ株式会社

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	SC62A (半角)
SC62A/JWG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	医用電気機器共通事項
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 1 月 19 日 ～ 2009 年 1 月 23 日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）京都	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Hubertus Lasthaus, John Hedley-Whyte	幹事国 アメリカ	
参加国及び参加人数	8 ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、デンマーク、オランダ、オーストラリア、台湾、日本、参加人数（25）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○石田伸司（テルモ）、○中谷敬（日本光電）、越後雅博（日本光電）、倉部勇一（日本光電）、倉繁和彦（フクダ電子）、河野照雄（佐多商会）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景：在宅医療機器に関する国際規格（IEC60601-1 の副通則　IEC 60601-1-11）がを制定するため作業が ISO/IEC 委員会の Joint Working Group (JWG6)として進められている。この副通則が対象とするのは，医療専門家の管理下に無い状態で使用する家庭用医療機器である。家庭や介護施設で使用する医療機器（血圧計、体温計、酸素濃縮器、ネブライザ、血糖測定器、在宅用人工呼吸器など）が対象である。これまで 3 回の国際委員会が開催され、現在 2nd Commttee Draft(CD2)が発行されている。

目的：今回の第 4 回国際委員会では、CD2 に対して予め集められた各国コメントについて討議し、Committee Draft for Vote(CDV)案を作成する。

成果：日本が前回の委員会で主張するも認められず、今回再度実施不可能として強く変更を主張した環境試験の条件、特に低温環境下における湿度制御条件については概ね主張が受け入れられて緩和（最低仕様温度環境下において相対湿度を±3℃に制御することを削除し、最低仕様温度環境下において相対湿度を 15%以下に制御することとする）されることとなった。また、新たに、移動中動作機器（TRANSIT-OPERABLE ME EQUIPMENT）に対する結露環境試験が新たに追加された。

過去 3 回の委員会で十分な討議がなされており、そのほかの討議内容としては、言葉の定義や解釈に関するものが多く、実質的に大きな問題や影響があると思われる討議内容はなかった。

今回の討議内容を反映して、約 2 ヵ月後に CDV が発行される予定である。

問題点：特に無し。2 ヵ月後に発行される CVD を見て、再度内容の検討を行う。CDV に対する投票を経た後、2009 年 10 月ドイツ　ベルリンにて第 5 回国際委員会が開催される予定である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／SC62A-③（事務局記入）　　様式 9
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：2009 年 1 月 27 日
予算番号：H20SC62A21

国際会議日本開催
経費収支報告書

1．組　　織：　番　号　　TC62&SC62A
　　名　称（日本語）　医用電気機器

2．会　　議　名：　SC62A/JWG6（☒単独開催　☐同時開催）
　　☐TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☐その他

3．開 催 期 日：　2009 年 1 月 19 日 ～ 2009 年 1 月 23 日

4．開 催 場 所：　京都

単位:円

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	351,634 円	会議室使用料金	172,200 円
ME標準化委員会	527,453 円	会場設営費	42,777 円
	円	飲物代	126,200 円
	円	昼食代	157,610 円
	円	懇親会費	234,441 円
	円	雑費	145,859 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	879,087 円	合計（b）	879,087 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー6 人＋外国人 19 人）］×会議開催日数 5 日×1.5 万円＝1,875,000 円

補助請求金額　351,634 円
［補助基準･運用規定の補助率（40 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2009 年 1 月 27 日

申請責任者：　石田 伸司

※本報告書は、**(様式4)「国際会議報告書」**に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／TC80-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 2 月 10 日

（報告者記載）整理番号：H20TC80⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

出席会議名（半角） TC80/WG6	区　分 □TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	組織番号（TC/SC/TA）	TC80（半角）
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	舶用航海および無線通信装置とシステム
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2009 年 2 月 4 日 ～ 2009 年 2 月 6 日		
開　催　場　所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr S. Steier	幹事国　UK	
参　加　国及び 参　加　人　数	9 ヶ国、主な国名 英国、米国、ロシア、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、韓国、日本、参加人数（18）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 田北 順二 （日本無線）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景　：船舶搭載機器のデジタルインタフェースに関する規格作成委員会である。

2．目的　：イーサーネットを使用した軽量インタフェースの検討、及び IMO（国際海事機関）で採択された INS 性能基準や審議中のアラート・マネージメント性能基準のためのインタフェースの審議を行う。

3．成果　：　1) IEC 61162-1

・AIS 基地局、AtoN 用のセンテンス PAS103 は、それぞれの装置規格の中に記述し、IEC 61162-1 には、入れないことになった。

・WG4A で審議中のガリレオ受信機用のインタフェースを審議し、内容がアップデートされた。更に、検討を加えた後､IEC 61108-3 CDV の Annex に記載されることになった｡また IEC 61162-1 センテンスと IEC 61162-3 PGN と対照表の提案が NMEA からあった。

・日本から提案した、アンテナ位置と CCRP（共通基準位置）用の ” CRP ” センテンスについて審議し、次回の WG6 会議まで、関係者でさらに検討を加えることになった。

・アラートマネージメント用のインタフェースについては、IMO、IBS 検討コレスポンデンスグループからの入力を見て、検討することになった。

・IEC 61162-1 の次回改訂版 Ed4 は、2011 年までに見直し、発行されることになった。

2) IEC 61162-3(NMEA2000)

NMEA より次の報告があった。

・Class-B AIS 用の PGN(Parameter Group Number)を作成した。

・アラートマネージメント用のドキュメントを作成した。

3) IEC 61162-4 軽量イーサーネット(Light Weight Ehthernet)

・各国からのコメントにより、ドラフト V7 に修正を加え V12 が作成された。更に見直しを行い、CD が回章されることになった。日本が提出したコメントは、大部分が採用された。

・レーダ映像について、レーダ規格の TCP/IP 以外に、UDP によるものが検討されることになった。

・IEC 61162-1 に付加する TAG BLOCK の詳細な内容を決定した。

・UDP アドレスは、センテンスの種類により割り当てることになった。

・IEC 61162-450 LWE 規格の CD の３月発行を目標とすることになった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3/TC80-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 2 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H20TC80⑫

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG14	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	舶用航海および無線通信装置とシステム
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2009 年 2 月 2 日 ～ 2009 年 2 月 6 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）サラソータ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Peggy Browning	幹事国　UK	
参　加　国及び 参　加　人　数	7 ヶ国、主な国名 日本、米国、uk、ｽｳｪｰﾃﾞﾝ、ﾄﾞｲﾂ、ﾉｰﾙｳｪｰ、ｵｰｽﾄﾘｱ、参加人数（15）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古山　賢二(日本無線)、○矢内　崇雅(沖電気工業)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１背景　海上交通における航行安全、船舶識別及びセキュリティの有効手段として、AIS の普及促進と性能向上が IMO にて推進されている。この考えに沿って策定された IMO　PS をベースに IEC では船舶搭載、陸上設置及び救難捜索向け等の各種 AIS 規格を開発をしている。

2　目的　（1）2009 年 1 月に CDV 回章を予定した IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART に対する TE80　Secretary の要求の審議をを行い、CDV（案）を完成させる。（2）前回のコブレンツ会議にて、各国からのコメント等の内容を盛込んだ IEC61993-2　Ed.2 のドキュメントを精緻化して 2009 年 3 月の CDV 回章を目指した CDV（案）として仕上げること。（3）2009 年/5 月以降の開発項目と会議のスケジュール化の審議を行う。

3　成果：（1）2008 年 2 月の WG8B　Editorial 会議にて IEC61097-14　CDV 案に対して、ITU-R からの Liaison を受けての COMSAR13 会議の結果に基づいて TC80　Secretary からの IEC61097-14　修正 CDV 案としての入力文書の審議と追加要求であるこれまでの海上実験で得られた Range　Performance を Annex のとして作成された内容の審議を行った結果、エディトリアルな修正を行い最終の CDV 案を作成した。これにより WG 長にて、提出すべき CDV 案としてのスタイルの確認を行い、TC80 事務局への提出作業を進めることが WG にて確認された。

（2）2009 年 3 月の CDV 回章のために前回のコブレンツ会議にて審議された IEC61993-2　Ed.2　CD とコメント一覧表での結論未了項目である①これまでに開発された同種の AIS 装置（クラス B"CS"装置、基地局装置及び航路標識装置）と CDV 回章が近い AIS-SART との運用要件（VDL センテンスの拡張等）の整合性とテスト要件の盛込み、②付属機器である表示装置(MKD)での表示性能要件の向上及び③無線関連項目に関する性能とテスト要件の他の AIS 装置との整合性と改定内容等の審議結果から、当該 CD のアップグレード作業がほぼ完了した。但し、CDV 案としてのエディトリアルを含めた見直し作業までは至らなかったため、今回の CD 回章とコメント要求を WG メンバーに行い、次回の 2009 年 5 月のサラソータ会議にて CDV 案として纏めるとしたスケジュールが確認された。

（3）2007 年に NP 投票結果から、エキスパートの参加国不足から開発がとまっているクラス B"SO"　AIS について NP 提案国であるスウェーデンから当時の CD 内容の見直し版の説明と CDV 案作成の要求があり。CDV 案作成の推進に関して、WG としては次回から開発作業の開始することで確認がされた。その他の AIS 装置の開発とそのスケジュール化は 2009 年 9 月の TC80 総会での審議項目の各国の提案状況を考慮して次回に議論をすることにした。

4　今後の会議予定：次回会議は 5 月 6 日～9 日　米国　セントピートビーチとし、次々回の会議は IEC61097-14 AIS-SART の CDV 回章日程を見計らってスウェーデンでの開催を念頭に日程の確定を図る。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／TC100TA1-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 1 月 26 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA1③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：伊賀弘幸　報告書作成者氏名：伊賀弘幸　（会社名）株式会社東芝

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC100/TA1 (半角)
TC100/TA1 62087 メインテナンス会議(STB 消費電力測定法)	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称(日本語)	放送用エンドユーザ機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2009 年 1 月 9 日 ～ 2009 年 1 月 9 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ラスベガス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Keith Jones	幹事国 日本	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 豪、米、日、参加人数（9）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○伊賀弘幸（東芝）、○内藤明彦（パイオニア）、○後藤隆幸（パナソニック）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

IEC 62087 "Methods of measurement for the power consumption of audio, video and related equipment"の TV 部分の改定（TV の消費電力測定法）版が Ed2 として 2008/9 に発行された。これに続いて、STB 部分の消費電力測定法の改定を Ed3 として行っている。二回のアドホック会議に続いて、今回が初めての正式なメインテナンスとなった。その結果を報告する。

- On Mode だけでなく、EPG Download 状態も規定することで合意。これは特に TC110 の 62542 の動きに合わせたものであり、そこで定義されている Active Mode に含まれるものである。
- First Forward、Rewind(Review)、Slow Motion の各測定に関しても触れる。
- 入力条件は HD と SD の両方とする。
- マルチチューナの測定方法の測定方法を考慮する。
- Web 会議等で Working Members の合意を得て、2 月には CD 回付の予定

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館） Tel：03-5275-7259 Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／SC31-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 2 月 9 日

（報告者記載）予算番号：H20SC31⑥を充当

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　　報告書作成者氏名：　本澤　純　（会社名）（株）日立製作所

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC31（半角）
SC31/WG4/SG3 SC31/WG4/SG6	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他	名　称（日本語）	自動認識及びデータ取得技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2008 年 11 月 10 日 ～ 2008 年 11 月 12 日		
開　催　場　所	（国名）スイス	（都市名）ノウシャテル (Neuchatel)	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	SG3:S.Halliday, SG6:J.Pfluegl	幹事国　米国	
参　加　国及び 参　加　人　数	ヶ国、主な国名 米国、イギリス、ドイツ、フランス、韓国、オーストリア、参加人数（　）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○本澤 純（日立）、富岡 健（富士通）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．WG4/SG3

・RFID のエアーインタフェース規格に関する改訂要求に対して、現在改訂審議が行われている。今回は、ISO/IEC18000-6 の改訂ドラフトの投票に対するコメント等への BRM（Ballot Resolution 会議）が中心であった。

・ISO/IEC 18000-6 に関して、FCD 投票は賛成多数にてパスした。BRM の結果を反映し、2nd FCD 投票にかけることになった。

a) Type C の EPCglobal C1G2 Ver.1.2.0 対応(Kill 拡張, PC 15h, XPC 等)：特に変更なく承認された

b) センサ対応：IEE1451.7 などの規格検討と並行して、引き続き拡張を検討する

・ISO 18000-3 Rev2 CD (HF 帯 13.56MHz RFID)

Mode 3 に関して、EPCglobal HF Gen2 v.1.0.1 をベースとし、CD 投票にかかっている。

・RFID のセキュリティについて（ISO/IEC 18000-6 Type C 関連）

センサデータなど大容量化していることから、タグメモリ内の File System、を検討する

→NP 投票は賛成多数にてパスした。セキュリティを検討する新たな WG4/SG7 を立ち上げることになった。

→日本コメントのセキュア電子タグ・プロトコルに関しても、WG4/SG7 にて審議していく予定。

2．WG4/SG6

・RFID の性能試験方法及び適合性試験方法について審議が行われている。

性能試験方法では、ISO/IEC18046 Part1（システム性能試験方法）と ISO/IEC18046 Part2（リーダライタ性能試験方法）は Working Draft 検討段階にあり、Ad-hoc group により検討を進め、次回会議にて審議し CD 投票に進める。

・適合性試験方法では、ISO 18047-2：米国から、ＮＰおよびドラフトを提示することになった。ISO 18047-3 Rev1：引き続き、AdHoc にて規格検討を行っていくことになった。18047-6 Rev2：ISO 18000-6 の規格改訂に伴い、規格改訂を実施中。AdHoc にて引き続き検討を行い、次回会議にてレビューを行っていくことになった。ISO 18047-7 Rev1：センサに関連したコマンドのエラーコード(IEEE 1451.7)の取扱いなどが課題として残っている。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122